ブラジルミッショントリップ

2018

報告書

国外宣教委員会

ブラジルミッショントリップ報告書　あいさつ

皆さまのお祈りとご協力の中、ブラジルミッショントリップを執り行うことができました。その恵みをひとりでも多くの方々と分かち合いたいと願い、このような冊子を作成いたしました。

ぜひ、お読みくださり、また続けてブラジル宣教のためにお祈りください。国外宣教委員会としては、これからも様々な宣教地へのミッショントリップ、ミッションボランティアなどを送り出したいと願っていますので、ぜひそのこともお祈りください。

吉持日輪生

現地でのスケジュール（2018/08/01(水)～8/15(水)）

日付	朝	昼	夜
8/ 1 （水）	10:55 成田出発		
8/ 2 （木）	7/35 到着 BSB		歓迎礼拝（持ち寄り）
8/ 3 （金）			キャンプ場へ出発
8/ 4 （土）	日本語キャンプ	日本語キャンプ	日本語キャンプ
8/ 5 （日）	日本語キャンプ	日本語キャンプ	日本語キャンプ
8/ 6 （月）			
8/ 7 （火）	訪問ヴァルジン	訪問ヴァルジン	祈祷会
8/ 8 （水）	City Tour	Churrascaria シュラスコ	
8/ 9 （木）	訪問インクラ	訪問インクラ	
8/10（金）	8:30-10:30 日本語学校（始業式）	14:30-16:30　日本語学校	19:30-21:30 日本語学校　飯田＆役員会懇談
8/11（土）			Mission Night 伝道集会
8/12（日）	礼拝　父の日	昼食ゆずあん Feira	
8/13（月）		夕方　送別会	21:55　出発 BSB
8/14（火）			
8/15（水）		成田到着 14:00 解散	

参加メンバー

氏名	性別	教会名
渡部桂子（わたなべけいこ）	女	愛媛めぐみ教会
本間昭弘（ほんまあきひろ）	男	横須賀中央教会
柴田主貴（しばたかずき）	男	横浜上野町教会
里見拓也（さとみたくや）	男	松原聖書教会
飯田仰　（いいだあおぐ）	男	横浜上野町教会

愛媛めぐみ教会
渡部桂子

ブラジルミッショントリップの 10 日間、浜田宣教師ご夫妻は、毎日私たちをご奉仕の現場に連れて行ってくださったり、また時にはご家庭に招いて交わりの時を作ってくださったりして、非常にオープンに宣教生活を見せてくださいました。ブラジルの教会と日本の教会の違いや異国で生活する困難などを私自身も経験し、ご夫妻が置かれている現実を身近に感じることができました。

ブラジル生活も 6 年目を迎え、浜田家のみなさんがポルトガル語を習得し、現地の生活に馴染んでおられるようでした。が、渡伯した頃のお話を伺うと、現地の小学校に転校して半年くらいは、先生や友達が何を言っているのか全く分からないまま過ごしていたそうです。陽子夫人はポルトガル語を少しでも早く習得するために、英語に頼るのを禁じていたそうです。そのため、思うようにコミュニケーションが取れなくてストレスを感じていたとおっしゃっていました。

ブラジル人の時間感覚に慣れるのも大変だと感じました。浜田宣教師曰く、「ブラジル人は時間ではなく、人で動く」。私の滞在中も予定がコロコロ変わったり、急に頼まれたり、予定時刻に終わらないことがしょっちゅうでした。時間に正確な日本人が適応するのはとても難しいと思いました。浜田ご夫妻は、そういう習慣を受け入れ、予定通りにできるように前もってブラジル人に説明して確認を取っておられました。そうやって、私たちのミッショントリップのスケジュールも組んでくださいました。

異国でさまざまな困難に戸惑いながらも、ブラジルの救いのために柔軟に、寛容に地域に溶け込もうとする姿が、現地の兄弟姉妹や日系人たちに受け入れられていました。ご夫妻

は、日常生活を丁寧に生きること、人々との地道な関わりを持ち続けることを大切にしているとおっしゃいました。ご夫妻のお働きや祈りが報われていくように祈っていきたいと思います。

このミッショントリップでは、私自身にも、信仰生活の課題が与えられました。1 つは、どんな状況でも聖別する時間を持つことです。実は、ミッショントリップの間、みことばに触れる時間がほとんど持てませんでした。私は普段、自分が自由になれる時間を使ってデボーションをしていました。自由な時間ですから、何時からということも、どのくらい費やすかということも決まっていません。その時の気分に任せていました。しかし、今回のような全く新しい環境に置かれ、常に人と交わっていると、自由な時間というのは限られます。残念なことに、思うように時間が取れないことがストレスになってしまいました。この経験から、自由な時間ができるのを待つのではなく、この時間は主に捧げると決めなければならないことを思わされました。人との交わりから一旦離れて、主との交わりに入る勇気と決断が必要なのかもしれません。よい方法についてはこれから兄弟姉妹たちにも聞いてみたいと思っています。

2 つ目は、奉仕をする際に、『主が願われる働き』が何かを中心に据えることです。私はこのミッショントリップで、初めて経験することがいくつかありました。通訳を介しての証や賛美リード、家庭訪問などです。証をした時、信仰の未熟さを知られるのではないかととても不安でした。他の人が賛美する姿を見て、そんなに上手くできないと自信を失ってしまいました。気が付くと、神様のために喜んで捧げるという真理がすっぽりと抜け落ちていました。奉仕とは、自分がそれをするのに十分自信があるからとか、それが御心だと分かったからするのではないのです。今持ち得る中で最上の物を「あなたが願われることでしょうか」と問いながら捧げることなのです。主だけに心を留めて奉仕ができるように整えてくださいと祈りたいと思います。

このミッショントリップの間、何度も自分の信仰の弱さに向き合わされました。と同時に、遠く離れたブラジルの地に信仰の友が与えられ、励ましや支えを受けて帰って来ました。自らを差し出す者に主は必ず応えてくださるということを経験しました。

横須賀中央教会
本間昭弘

1．出発前にミッショントリップに期待したこと

・浜田宣教師一家との出会いと交わり
・ブラジリアン・アライアンス・キリスト・宣教教会員との出会いと交わり
・移民一世・二世との出会い
・日本語キャンプでの交わり
・現地教会の祈祷会・ジャパンナイト・礼拝出席を通した交わり
・ブラジル料理を味あうこと

2．フライトスケジュール

・8 月 1 日
成田空港発 10:35　ダラス着 08:50
ダラス発　17:00　マイアミ着 20:55　マイアミ発 22:55
・　　2 日
ブラジリア着　07:35　合計 33 時間
・8 月 13 日
ブラジリア発　21-55
・　　14 日
マイアミ着　04:40
マイアミ発　07:00　ダラス着　09:04　ダラス発　11:00
・　　15 日
成田着　14:00　　合計 26 時間

３．ブラジリア現地訪問報告

着いた初日から帰国の時まで、友好的で親しく歓迎してくださいました。以下、ミッショントリップに期待したこと①から⑥の順番に恵みと感想を記しました。

浜田宣教師一家との出会いと交わり

8 月 2 日（木）の午前 7:35 にブラジリア空港に着き、手続きを済ましてロビーに出たとき、浜田宣教師夫妻と安井牧師の出迎えを受けました。とてもお元気そうで笑顔で迎えてくださり、ジャパンチーム 5 人が 2 台の車に分乗し、ブラジリア宣教教会まで、約 20 分で到着できました。到着の安心と出会いに感激しました。

その日の夕方、浜田先生夫妻と飯田総主事と本間で、国外宣教委員会の立場で第 2 期の暮らしの様子や、第 3 期に向けての計画や教育奨学金の可能性のお話をした。

印象に残っていることは、間もなく 6 年目を迎えるブラジル生活の中で、最初は適応がうまくゆかず、一期で帰らざるを得ないのではと思ったそうですが、子供たちが、現地の小学校や教会生活に徐々に慣れてきて、元気を取り戻し、2 期目を迎えたことでした。今は、長男の真理生君が来年 1 月から、現地の高校生に進学希望とのこと。続く 3 人の弟たちも現地の高校、大学を目指さざるを得ない。それに伴い、私たち夫婦も 60 歳（あと 20 年）はブラジルに留まる覚悟ですとのことばが心にしみました。その後、日本語学校の奉仕や教会の礼拝、日本人一世、二世の訪問を通して、浜田先生ご夫妻が現地に溶け込んで貴い働きをしていることを感じ、安心しました。特に、日本語学校のスタッフとして中心的な働らきを担っていました。

ブラジリアン・アライアンス・キリスト・宣教教会員との出会いと交わり

町のほぼ中心に近い場所で、空港からも 20 分程の距離にあり、ブラジリアで唯一の日本語・ポルトガル語併用の教会で日本人一世、二世、三世の拠り所となっていました。安井牧師が二世で、牧師夫人の弘子先生が愛媛県松山市の出身で日本語の教師として中心的働きをしていました。教会員は、日系の方々が中心で、ほぼ全員が日本語を話すこ

とができるようでした。皆、小さいころから、教会の日本語学校に通って、日本語の習得と習字や折り紙などを通して日本文化に触れていました。高校生や大学生の中には、日本のＪＩＣＡの日本語研修会に行って日本訪問を数回ずつ経験していました。今回の私たち日本人 5 名の訪問に期待してくれて、献身的に奉仕してくださり、主の愛を感じました。教会の奉仕は、賛美チーム（ギター、ドラム、バイオリン、シンセサイザー、ボーカル等）と日本語学校スタッフ（牧師夫人、浜田宣教師、教会員（ゆり姉、大学生、その他数名）とキッチンワーカー（元料理店経営者、数名の姉妹、数名の男性）で、イベントがあると活動がすぐ始まりました。その外、ダンスチーム（高校生以上、中学生以下総勢約 30 名）が活躍していました。他に、ミュージカルチームを計画中とのことでした。

移民一世・二世との出会い

教会から約 20ｋｍほど離れた郊外 3 か所に、広い農地（20ha）を所有している一世農家の人たちが今も一部は現役で働いていました。最初に訪問した VARGEM BONIT A では、午前中に河村さん（78 歳、脳梗塞で左半身不随、高知県出身の夫妻、）、新保（にいほ）さん夫妻（ご主人は 77 歳）、吉田さん（87 歳、群馬県出身アライアンス教会の開拓期からの教会員で安井先生の前の二宮先生から受洗、ブラジリアに来て 57 年）宅で雑談後、吉田さんの長男夫婦、近所の日系人夫妻の前園夫妻（東京池袋出身）、岩切さん（きのこ農園経営者）、松下さん等を交えて昼食をいただきました。昼食後、家庭集会をもち、本間が救いの証しをしたのち、飯田師がヨハネ 16:33（これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては艱難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝っているのです。）より、ショートメッセージをしました。

集会のあと、中島さん、園田さん、比嘉さん、伊波さん、安田さん、なかんだかりさん宅を訪問し、ジャパンナイトの案内と礼拝案内、浜田進師手作りの聖句栞を手渡して再会を期待しました。

2 回目のインクラ地区訪問では、二宮さん（愛媛県松山市、カット野菜工場見学、農場見学）、弓削さん、岡原さん、吉野さん、吉本さん、内田さん、福島さん（教会員、熊本県出身）、宮崎さんを訪問しました。二宮さんは、8 月 12 日（日）の礼拝に出席し、礼

拝後帰宅してから、安井牧師に電話で牛 1 頭を献品しますとの連絡があり、牧師はびっくりしたそうですが、とりあえず受け取る連絡をし、後日、役員会で検討することになったとのことでした。

3 回目のヒアショ・フンド地区の訪問では、山本さん、杉井さん、上野さん、金海さん（北海道旭川出身）宅を訪問しました。

いずれの方々も、76 歳～86 歳と本間と同じ世代を過ごしてきた方々で、今回の訪問を喜んでくださいました。

囲碁対局の実現：農家の方ではないけれど、教会員の 3 姉妹のお父さん（現在ノンクリスチャン）の木原さん（一世、85 歳）が囲碁されると、教会員のふみこさんから聞き、是非囲碁を打ちたいと都合を聞いていただいたところ、いつでも歓迎といっていただき、自由時間のときに安井先生に家まで連れて行って、お会いしました。サンパウロの囲碁大会では五段で打っているとのことで、とりあえず互先(同等)でスタートし、お互いに黒番で勝ち、白番で負けを繰り返し、合計 3 日間で、4 勝 4 敗の後、 9 回目の対局で本間が黒番で負け、木原さんの勝ちで終えました。思いがけないブラジルの囲碁対局が実現し、木原さんも喜んで下さり感謝でした。木原さんは、 9 月にはサンパウロの囲碁大会に申し込まれており、飛行機の予約も済まされているとのこと。好成績を期待しています。

日本語キャンプでの交わり

キャンプの標語は「変わらないもの」でした。

教会より、車で 1 時間半ほどの郊外にある、ブラジル・アライアンス教団所有のキャンプ場で、敷地面積は松原湖キャンプ場より広い敷地でした。礼拝用建物、食堂及びキッチンの建屋、宿泊用建屋（約 10 か所）があり、宿泊人数は、最大で約 150 名とのことでした。全参加者数は 125 名で、教会員とその子弟たち、教会の日本語学校参加者、国立ブラジリア大学の日本語学科の学生たちで、まだ求道者クラスの人たちが 40 名ほど参加していました。教会の期待は大きいものがありました。キャンプは、前日夜、10 時頃にバス 2 台で到着し、オリエンテーションとお茶の後、シャーワーを浴びて就寝しま

した。翌日は、朝 8:00 からラジオ体操をし、ジャパンチーム 5 人は、前に出て模範演技の役割をしました。2 日間で、Worship Time と聖書のお話　3 回、ワークショップ（6 種類の分科会）2 回、日本食祭り、フリー・スポーツタイム（サッカーや散歩）、キャンプファイヤーが持たれました。

この中で印象的だったのは、Worship Time の時間が 30 分程度あり、賛美を通して一体感が生まれたところで、ジャパンチームの 3 人が各集会で証しができたこと、聖書のお話で変わらないものが神の言葉（聖書）であることが語られ、集会の終わりに「イエス様に従っていきたい人」は手を挙げてくださいとの招きに、多くの若者が手を上げていたことでした。このことが、ジャパンナイトへの出席 150 名以上）、日曜礼拝への出席（130 名以上）につながったようでした。

3 回のお話の前に。ジャパンチームの特別賛美 {慕い求めます} を里見拓也さんのドラム付きで歌ったことも好評でした。

ブラジル人のハグを通した挨拶に触れるため、飯田先生より、会衆にアピールしていただき、集会後に多くの方々から、ハグをしていただき、友好を体で体感できました。

現地教会の祈祷会・ジャパンナイト・礼拝出席を通した交わり

アライアンス宣教教会との交わりでは、8 月 7 日（火）の夜の祈祷会に出席しました。祈祷課題が A 4 用紙にびっしりと 2 枚に記入されていました。教会全体の祈祷課題が 34 項目、教会員個人の祈祷課題が 45 項目に分かれており、牧師が全体を説明し、後で 3 人づつのグループ（約 10 組）に分かれて熱心な祈祷が続きました。

8 月 11 日（土）夜のジャパンナイトの伝道集会では 150 名以上の方々が出席し、会場があふれました。賛美とお話の後、焼きそばパーテー、ヨーヨー釣り、スーパーボール釣りを行い、私はスーパーボール釣りの係を柴田主貴君と交代で担当し、交流を深めました。初めてのかたも多く、釣り方や持ち方のコツを教えてあげました。焼きそばの受け取りには長蛇の列ができ、全員受け取りに 30 分以上かかりました。

8 月 12 日（日）の礼拝に出席し、ワーシップタイムでは、日本語とポルトガル語の賛

美が何局も歌われ、大変盛り上がりました。説教の前に、ジャパンチームの特別賛美（5名、ドラム演奏あり）と救いの証しを本間が担当し、原稿なしで話すように言われ、少々脇にそれましたが、証しができたことは感謝でした。

説教を飯田師が担当し、「変わらないもの」の題で、日本語キャンプに出席した方々、ブラジル一世訪問者を含めて 130 名以上の出席者があり、主に感謝しました。一つ日本と違っていたことは、礼拝献金の時、講壇下にある、2 個の献金箱に向かって、教会員が立ち上がって、2 列に並び献金箱にそれぞれ入れる方式をとっていたことでした。礼拝後も再開のハグをたくさんしていただきました。

ブラジル料理を味あうこと

今回、１２日間のブラジル滞在出中、朝食は、主にホームステイ先でいただきました。パン食がメインでしたが、パスタやごはん、手巻き寿司等を用意してくれました。デザートの果物も種類が豊富で特大のマンゴやスイカ、パパイヤが毎会ありました。飲み物は、牛乳、コーヒー（ブラジル味で、多少苦みが強い）、フルーツジュースもあり、全部おいしくいただきました。

昼食は、外食に合計 5 回ほど出かけ、牛肉中心で、大皿に好きな料理を好きなだけ載せて、受付で重さを測って支払い伝票を受け取る方式でした。最初は取り過ぎの傾向がありましたが、2 回目以降は控えめに取ることを覚え、いずれも完食できました。最後に食べに行ったシュラスコ（ブラジルの代表的肉料理）では、コックさんが大串に刺して焼いた肉を各人のテーブルに来て、食べたい場合は、合図をして、肉片の切り口を各人ではさみ、好きな量だけ切り落として食べる方式でした。

私は、ラム肉、猪肉、豚肉、牛肉の食べ比べをしました。やはり、牛肉が一番でした。夕食はイベントの料理が多く、日本語キャンプでは、ブラジル式カレーライス（牛肉と豆入り）や、日本食（おにぎり、焼きそば、焼き鳥、たこ焼き、お好み焼きなど）を食べることができ、教会ではうどんもあり、日本と変わらないメニューで感謝しました。

最後に、今回のブラジルミッシントリップが浜田宣教師夫妻の 3 年前からの願いとお祈りが実現し、交流を深め、ブラジリア教会にとっても大きな祝福を受けましたとの浜

田宣教師のメールを見たとき、主に栄光に帰する恵みの一端を担わせていただいたことをうれしく思いました。同盟基督教団に属するすべての教会、宣教区のお祈りとサポートによって支えられましたことを主に感謝して報告いたします。5 名の参加者一人一人が、全国の同盟基督教団のクリスチャンから、主によって選ばれ、ミッションの役割を与えられたことを痛切に感じました。

オブリガード

横浜上野町教会
柴田主貴

私はブラジルミッショントリップを通し、たくさん学び、たくさんの恵みを受けました。

まず、アライアンス教会の方々の熱烈な歓迎に感動しました。日本から来たというだけでとても喜んで下さいました。

ブラジルで最初に驚いたことが挨拶の仕方です。日本と違い、握手やハグをすることが挨拶の基本でした。初めは少し恥ずかしかったですが、恥ずかしがること自体が恥ずかしいと思い、すぐに慣れました。

アライアンス教会の役員の方々はほとんどが日系人であり、日本語が喋れました。私はコミュニケーションが取れるのか心配してたので、そのことにとても安心感を得られました。

ブラジルミッショントリップが始まって 2 日目から、2 泊 3 日の日本語キャンプに参加しました。参加者の年齢層は幅広くて 120 名を超え、そのうちの 40 名ほどがノンクリスチャンと聞きました。日本語キャンプでは私たち日本チームが日本語で賛美をさせて頂いたり、日本の文化を体験してもらったりしました。また、日本語が喋れる人だけでなく、喋れなくても周りに通訳できる方がいて下さったおかげでたくさんの方々と交わりを持つことができ、とても感謝でした。

教会から少し離れたところへ車で移動し、日本人の移民 1 世の方々とお会いできました。皆さんは日本人と会うのが久しぶりだったようでとても喜んでくださいました。そこでは移民 1 世の方々の貴重な体験談を聞くことが出来ました。中には大変な思いをしてきた方々

もおられました。その方々のお話が良く心に残っています。

日本人の宣教師である浜田先生ご家族とも交わりをもてました。浜田先生ご夫妻の証を聞かせてもらっり、昼ごはんをご馳走してくださったりと、とてもお世話になりました。また、息子さん 4 人とも仲良くなれて遊んだりもできたので、とても楽しく、良い時間を過ごせました。

私のホームステイ先は、息子さん 1 人、娘さん 1 人の 4 人家族の元でした。
奥さんが日本語を話せる方で、あとの方は英語が話せました。私は英語はほんの少ししか話せませんが、難しいことは通訳して下さったため不自由無く会話が出来て感謝でした。

ブラジルと言えばなんと言ってもサッカー！私はサッカーが大好きです。日本語キャンプでやったり、他の日に教会の方々とやったりしました。さすがブラジル、子供から大人までみんなとても上手でした。言葉は通じなくてもサッカーは万国共通だと肌で感じられました。

ブラジルのご飯は予想していたよりも遥かに美味しかったです！日本人でも食べられる料理がたくさんありました。やはり肉と豆料理が多く、ボリュームも日本と全く違いました。また、フルーツも様々な種類があり、どれも美味しかったです。

私はこのブラジルミッショントリップで日本とブラジルの文化の違いを学び、私自身の考え方も変わったような気がします。私は今まで、人のために何かをするというのはとても良いことだと分かっていても、それを行動に移すのはなかなか出来ませんでした。むしろ少しめんどくさいとさえも思ったりしました。でも浜田先生がどのようにしてブラジルの宣教師になったのかを聞いたり、アライアンス教会の役員や子供たちもが喜んで奉仕などをしている姿を見て、私もそのような人になりたいと思いました。

私は日本語キャンプで証をしました。人前で話すことが苦手だった私ですが、これもイエス様が用意してくださった場所なのだと思い、自分の言葉でイエス様の事を証できたので良かったです。ブラジルの皆さんの姿を見て、私もイエス様のために動ける人になりたいと思いました。

　最後に、私はこのブラジルミッショントリップにおいて本当にたくさんの方々にお世話になりました。アライアンス教会の皆さん、浜田先生ご家族、ホームステイ先のご家族。そして私の教会の方々、宣教区の方々、皆様方の祈りと支えがありこのブラジルミッショントリップに私は参加でき、恵みを受けることが出来ました。そして私をブラジルへと導いてくださった主に感謝します。本当にありがとうございました。

松原聖書教会
里見拓也

たくさんのお祈りと具体的な支援ほんとうにありがとうございました。8 月 1 日から 15 日までブラジルミッショントリップに参加してきました。なぜ、私が参加をしたのか、ブラジルの地で何を見て、何を感じたのか、神様が見せてくださった数々の奇跡を分かちあいたいと思います。ミッショントリップの全行程をなぞって分かち合うと膨大な量になってしまうため、ポイントを絞って分かち合いたいと思います。

なぜブラジルへ？

私はなぜ３６時間もかけ、地球の裏側ブラジルへ行ったのでしょうか。きっかけとそのための備えがたくさんありました。まず、松原聖書教会で行っている家の教会の働きです。家の教会での支援先が今回訪問したブラジリアアライアンス宣教教会に宣教師として派遣されている浜田献・陽子先生ご家族です。これが今回の参加のきっかけの１つです。支援している。献金もしている。ニュースレターも届く。ただ、正直に書くと私自身はそこに対する想像力があまりにも乏しく、祈りながらも心のこもらない気持ちがありました。じゃあ実際に見に行けばいいじゃないかというのがきっかけとなりました。また、私は学生の頃から国際協力を志ざし、海外への思いが強くありました。実際にタイへ行った際に、山口譲ご夫妻の宣教の働きを目にし、国外宣教の働きがいかにその地の人にとってかけがえのないものになっているのか、神様の御言葉の持つ力をみていました。このようなことからも国外宣教の現場を実際に見て、感じたいという思いがありました。

しかし、実際に行きたいと思っても、簡単に行ける場所でも期間でもありません。まず、職場の了解が不可欠でした。教員という立場上、夏休み期間であったため、比較的休みやすい時期ではありました。夏休みといっても部活動等業務はあり、基本的に休めません。

そこを神様は助け手と、職場の上司、管理職の理解を与えてくださいました。そして、むしろ、たくさん学んで学校へ、教育へ還元して欲しいと言ってくださるほどでした。この言葉を聞いたとき、私は神様が道を開かれることを感じました。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行ないなさい。（ピリピ２：１３～１４）」この御言葉の通りでした。今回のミッショントリップの参加が御心かどうかわかりませんでした。しかし、御心でなければ閉ざされるだろうという思いで走り出した私を神様は選んでくださり、道を開いてくださりました。

ブラジルと日本

ブラジル人の最初の印象は意外にシャイだなというものでした。しかし、これには深い理由がありました。

私たちはブラジリアアライアンス宣教教会を中心に今回のミッショントリップを行いました。ここはブラジリアで唯一の日本語とポルトガル語の同時通訳での礼拝を行っています。また、日本語学校も行っています。これによって、日系人の集いやすい教会となっていると感じました。そこの教会の人たちが意外にシャイな印象でした。

日系人の２世・３世はブラジルで生まれて、ブラジルで日本語を学んで話しています。彼らは自分の日本語に少しのコンプレックスを持っていました。日本語ネイティブの私たちの前で日本語を話すことにコンプレックスを感じるとのこと。これは驚きでした。また、日本語学校の存在もこの教会にとって、大きな意味がありました。日系３世の世代になって、１世である祖母祖父からの日本語を学んで欲しいとの思いで入学してきた子たち。日本のアニメをはじめとした文化から興味を持った子たち。それぞれに日本語に興味をもって通ってきていました。そのような子たちにとって、日本からの私たちは浜田陽子先生曰く、もはや芸能人だったようです。確かに熱烈な歓迎を受けましたし、意外なシャイさからも、この捉えられ方は間違っていないように感じます。

後述する日本語キャンプで、私は日本語会話の分科会を担当しました。ここでも日本とブラジルについて学ぶことができました。安井先生のご長男のアキラ君からの要望で人生を考えるような深い会話ができればとのことでした。深かったかは別にして、お互いの国

についての印象の違いが興味深かったです。なぜ日本語を勉強するのかというお題で会話をしたのですが、日本語を勉強して日本に行きたいという子が多かったです。そして、口を揃えて自分の国のブラジルを否定していました。そして、その原因が治安の悪さにあるようでした。実際に私は滞在中、一人で外を歩く機会はありませんでした。これは危険性からの教会側の配慮だと思います。また、街を見渡してもすべての家には鉄の柵があり、子どもたちの通学も保護者の送り迎えは必須、治安の悪さは感じました。（実際にはブラジリアではそこまで危険は感じません。彼らの指すブラジルはサンパウロやリオデジャネイロの印象です。浜田献先生のブラジリアの印象も同じようでした。）しかし、私がそれ以上に感じたのは人の温かさでした。教会の方々はもちろん、街の店員さん、浜田家の近所のお友達、また、キャンプの参加者たち、そのすべての人が温かく、人間味にあふれていました。また、ハグの文化もその温かさの一因でしょう。このように日本が見失いかけている大切な人との関わりがこの国にはありました。分科会のなかで日本を好きなブラジルの若者と話す機会を与えられ、ブラジルの若者の抱える難しさの一端をみたような気がします。

日本語キャンプについて

ブラジリアへ到着した次の日に私たちは日本語キャンプに参加しました。これを企画してくださったことがこのミッショントリップを有意義なものにするきっかけとなりました。寝食を共にして、共に祈り礼拝した時間、参加者とのたわいない会話。これらが私たちの緊張をほぐしてくれました。

このキャンプですが、参加者が 125 名。想像以上でした。日本語に興味を持つブラジル人がこれほどいること、クリスチャンのキャンプにこれだけ垣根なく入ってくることに驚きました。

キャンプはおおよそ日本でのキャンプと同じ流れでした。ゲームあり、ゴスペルタイムあり、キャンプファイヤーあり、分科会あり。ゴスペルタイムでの賛美も日本で賛美している曲があり、私たちも歌いやすかったです。また、日本チームで「慕い求めます」を賛美しました。私はドラムの賜物があったので、ブラジルの賛美チームに混ざって奏楽をし、ほかのミッショントリップメンバーがコーラスをしました。この曲はこのトリップ中、何度も賛美したのでブラジルの地で今日も歌われているかもしれません。日本語であっても、

ポルトガル語であっても、神様を賛美するという目的は同じです。私もポルトガル語で賛美しましたし、彼らも日本語で賛美しました。これは不思議な感覚ですが、同じものを見つめて賛美していることの共感は心地よいものでした。

また、ゴスペルタイムのなかで証をする機会をいただきました。これも恵みとなりました。証のなかで東日本大震災での経験を分かち合ったのですが、証を終えてから、ある青年が話しかけてきてくれました。彼は日本語が話せませんから通訳を介しての会話でしたが、日本語を話せなくても興味をもってわざわざ話しかけてくれたこと、証の内容について分かち合えたことが恵でした。これ以外にもたくさんの反応がブラジル人から来て、日本人の私の証が用いられたようで感謝でした。

ジャパンナイトについて

帰国前の土曜日にジャパンナイトという伝道集会を行いました。日本からたくさんの食材や物資を持ってくるように頼まれていましたが、ここで使用するためでした。このジャパンナイトにもたくさんの人が集ってくださり感謝でした。特に、私たちが今回の滞在中に出会った方々がきてくださったことに感動しました。

ジャパンナイトは集会と、日本文化を伝える時間とで構成されていました。集会では飯田先生がメッセージをされ、この集会のなかでも賛美をし、私も証をさせていただきました。自分の友人との関わりを証しましたが、今回の証もたくさんの反響をいただいて、多くの方から声をかけていただきました。

集会の後にはヨーヨー掬い・スーパーボール掬い・お菓子クジの遊びと、やきそばの提供がありました。見たこともないであろう日本のお祭りの遊びを必死でやるブラジル人の光景は、日本文化を伝える良い機会になったように感じました。

ブラジルの地で宣教をする

「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」（マタイ２８：１８～２０）このみことばは国外宣教

においてどのような意味をもつのでしょうか。私は今回のミッショントリップで１つの答えを見たように感じています。

浜田献・陽子先生ご夫妻の働きはブラジルの地において、かけがいのないものであり、先のみことばを自らの生き様を通して、証するものでした。

遠くブラジルの地に、４人の子どもたちと暮らす日々をどれだけ私たちは想像できていたでしょうか。神様のために献身し、ブラジルの地で伝道する決意をどれだけ共感できるでしょうか。

ブラジルには１９０万の日系人が現在いるとされています。また、外務省のデータによればカトリックとプロテスタントを含め約９０％がクリスチャンであるその国で浜田先生ご夫妻はいま伝道の働きをされています。

今回の滞在の目的は、浜田先生たちと求道者をつなげることが１つの大きな目的でした。日本から来た私たちが日系人の方と、またブラジルの方と教会をつなぐ、そこに１つの目的がありました。

滞在５日目。私たちは日系人コミュニティーであるヴァルジンボニータを訪問しました。私は渡伯前にブラジル移民の歴史を少し学んでいきました。壮絶な歴史の渦の中で、祖国日本を離れ、ブラジルの地に住まざるをえなくなった日本人たち。知識としては知っていた現実を、実際に日系一世の方々への訪問を通して、より深く感じることができました。

浜田先生らは毎週火曜日にこのヴァルジンボニータを訪問されています。ある教会員の方が病気で倒れられてからこの地で家庭集会を持っているということでした。そこでの経験が私にとって、この滞在の最も大きな学びとなりました。

いつものように訪問される浜田先生らに着いて、私たちもいくつかの日系一世の方のご自宅を訪問していきます。吉田さん(日系一世)のお宅で浜田先生から聞いた話が印象的でした。

このヴァルジンボニータで生きる日本人にとって、この集会は１つの希望になっている

とのこと。日本から移民としてブラジルに来て、帰ることができずに 60~70 年の間、この地に暮らしている。そして、体もうまく動かせなくなったご高齢の方にとっては週一回のこの集会で聞く、御言葉は希望の光となっているとのこと。実際に日系人の方は日本語を話す喜びを知っていますし、話せない苦しさを体験しておられます。また、生活の苦しさ、自分の置かれてきた状況から、希望を見出せずにいたことでしょう。そこに神様の御言葉が希望の光として輝いているのです。変わることのない神様の御言葉は、そんな彼らにとって希望の光となっていました。

また、松下さん(日系一世)の言葉も心に染み入るものでした。「私の故郷は天にある。」ブラジルに移民としてやってきて 50 年以上。もはや自分の生まれた日本は故郷とは呼べず、ブラジルの地も自分の故郷ではない。そのような状況のなかで御言葉の伝える天の御国は希望となって、本当の故郷を教えてくれる。ここでも浜田先生の働きが何を意味するのか、どのようにブラジルの方々の心に神様を伝えているのか深く知ることができました。

このトリップの最終日、浜田ご夫妻と総括の時間をいただきました。そこで飯田先生が言っていた想像力という言葉が印象に残っています。国外宣教は本当に遠く見えない地での働きです。でも、神様を伝える尊い働きです。どれだけ私たちが日本で現地に思いを馳せ、どれだけ想像できるか。そして、どれだけ祈ることができるか。引き続き、国外宣教の働きのために祈り続けたいと思っています。

最後に

今回のミッショントリップへの参加は私にとって自分の信仰を確認する素晴らしい時となりました。今回のトリップを通して、日本の良さを再確認できましたし、未知であったブラジルがほんとうに好きになりました。そして、家族だと呼んでくれる方々とも出会うことができました。

また、日本人が本当に必要とされていると感じました。日本語学校の働きもそうですし、日系人コミュニティーでの働きにも日本人が必要とされています。日本人にしか伝えられない、共感できないことがあって、それを必要としている方々がブラジルにはたくさんおられます。これからもブラジルの地での宣教をサポートしていくことができる仕組みが必要だと感じています。

そして、浜田先生ご夫妻、安井先生ご夫妻にはたくさんお話を聞いていただき感謝しています。また、ブラジルアライアンス宣教教会の方々にも感謝します。特に突然の変更にも関わらず私を受け入れてくださった永田さんご家族に感謝します。また、このような機会をいただき具体的な支援をしていただいた教団、宣教区、教会にほんとうに感謝しています。この機会を今後につなげ、教会へ、宣教区へ返していければと考えています。そしてなにより、このような素晴らしいミッショントリップに私を呼んでくださり、選んでくださった神様に感謝したいと思います。

横浜上野町教会
飯田仰
（国外宣教総主事）

今回のブラジルミッショントリップを実現してくださり、全てを守り導いてくださった主に感謝致します。全ての栄光が主のものです。ただただ主に感謝します。主ご自身がこの旅を実現させてくださり、全行程を守ってくださいました。そのために、大勢の方の心を燃やし、祈りと様々な形での支援を起こしてくださいました。このミッショントリップのために多大な犠牲をはらってくださったお一人おひとりに感謝を申し上げます。

今回、示されたこと、また、語られ、分かち合われたことを通して、一言では言い表すことのできない多くの実りが主によって与えられました。この働きと祝福が、ここで終わるのではなく、これからも続けて、世界中に分かち合われることを祈ってやみません。

宣教の働きには「想像力」が欠かせないと思います。今、現地はどのような状況なのか。また、世界ではどういった動きになっているのか。それを理解するためには、主から「想像力」を頂き、現況を知ろうとする努力によってでしか実現しないと思います。主は何をご覧になっておられるのかを知ろうとすることによって、私たちの心が揺り動かされ、聖霊様によって導かれ行動にうつすことができるのではないでしょうか。

宣教の働きは教会の生命だと思います。これからもあらゆる形を通して、主イエス・キリストを人々に指し示し、語ることができるように、私自身もできることからさせて頂こうと改めて思わされたミッショントリップでした。

Soli Deo Gloria.

ブラジリア・アライアンス
キリスト宣教教会
安井敏明 牧師

主の御名を賛美いたします。この度は、日本同盟基督教団より飯田仰先生と４名の兄姉の方々をミッショントリップとして当教会にお送り頂きまして誠に有難うございました。あらゆる犠牲を払って来て下さった兄姉の皆様、また祈りを以って送り出して下さった教団をはじめ各教会の皆様に心より感謝申し上げます。こちらでは主に４つの働きのご奉仕をしていただきました。①日本語キャンプ②移民として来られた日本人家族への訪問③ジャパンナイト集会④日曜礼拝です。

日本語キャンプ

日本語キャンプは二年に一度行っており今年は６回目でした。今回は 124 名（含スタッフ約 25 名）の参加者で過去最高でした。それは日本からミッショントリップの方々が来られたからでした。また、参加者の約 40%がノンクリスチャンであった事もこれまでのキャンプとは違っていました。神様は、飯田先生や浜田宣教師のメッセージまたミッショントリップの方々のお証を通して一人ひとりの参加者に語って下さいました。特に、信仰の決心に導かれた人が３名、クリスチャンとして新たな決心を表明した人が４名いました。「日本祭りの夕べ」では日本から持ってきて頂いた食材を用いて作った味噌汁やたこ焼き、お好み焼き等が好評で良い交わりの時ともなりました。

移民として来られた日本人家族への訪問

バルジェンボニッタ地区は車で約 30 分の農園地区で、約 50 家族が住んでいますが今回は、新保さん、川村さん、園田さん、伊波さん、中島さん、岩切さんなど６家族 10 名を訪問しました。また教会員である吉田信一兄の自宅では家庭集会を行い15名の出席者でした。

インクラ地区は車で約 1 時間の農園地区。約 80 家族の日本人が住んでいます。岡原さん、弓削さん、吉本さん、内田さん、二宮さん、福島さんの 6 家族 9 名を訪問しました。特に二宮さんは、メンバーの渡部桂子姉のご祖父母様と同郷であることが分かり意気投合し、不思議な導きを感じました。また若い時大阪で洗礼を受けておられ 8 月 12 日の礼拝に出席されました。（後日「礼拝はとても良かったです。ところで、放牧している牛を一頭教会に捧げたいのですがどうでしょう。」とのお電話があり私達も戸惑いましたが「喜んで頂きます」とお返事しました。時が来るまで牧場で預かってお世話して下さるとの事でした。）多くの家庭にとっては突然の訪問であったにもかかわらず本当に喜んで迎えてくださいました。ヒアショフンド地区は、車で 15 分。杉井さん、上野さん、鐘ヶ江さんの 3 家族 6 名を訪問しました。

これらの訪問を通し様々な方々と出会い、お一人ひとりを取り扱って下さる神さまの深い愛と憐れみを改めて感じました。また訪ねてゆくことの大切さも再認識いたしました。（訪問を通してジャパンナイトや礼拝に出席された方々もおられました。）
エスツルツラウ地区はブラジル人教会の開拓伝道地です。そこで奉仕をしているクラウデミール牧師家族を訪問して頂いたことは、闘病中のシジ夫人にとっても大きな励ましとなりました。

ジャパンナイト

ジャパンナイトの目的は、主に日本語キャンプ参加者へのフォローと交流を深めるためでした。約 170 名の出席者でノンクリスチャンが多かったです。集会プログラムは、賛美、キングスキッズのダンス、証し（里見兄）メンバーによる特別賛美、メッセージ（飯田師）でした。その後の、ヨーヨーつりや、ボールすくい等日本の遊びは年齢を問わず楽しく良い交流の時となりました。

8 月 12 日の日曜礼拝

メンバーの特別賛美と本間兄の証し、飯田先生のメッセージでした。この日はブラジルの「父の日」に当り 30 名のお父様方を神様に感謝し共に祈りました。

上記以外にも祈り会や教会での食事や短い時間でありましたが市内観光などの時間を通

して良いお交わりが出来ました。ミッショントリップのメンバーの方々は、年齢にも幅が有り、経験も趣味も出身地も職業も全く異なる方々でした。そして神様は、お一人ひとりの賜物を豊かに用いて下さいました。本間兄は趣味の囲碁を通して教会から遠のいている兄弟との交わりを持って下さいました。主貴兄はサッカーを通して子供たちから大変慕われておりました。また、日本語を話さないブラジル人や苦手な日系人にとっては飯田先生はもとより里見兄や渡部姉と英語でコミニュケーションができたのも幸いでした。このような交流を通して、神様は成人に限らず青年や少年達に宣教へのヴィジョンを与えて下さいました。

今回、飯田先生の考えられていたミッショントリップの目的は、「全てこの教会に実が残るように」であった事を後に浜田宣教師ご夫妻よりお伺い致しました。本当に有難うございます。誠に言葉が足りませんが、皆様のお働きと主に在るお交わりを心より感謝してご報告申し上げます。

浜田陽子　宣教師

まずはミッショントリップ(以下 MT)メンバーを送り出し、 祈りと献金によって支えて下さって諸教会、各宣教区、そして同盟教団に心から感謝しています。

MT が来て下さったことによって、わたしたち家族が同盟教団から祈られ、支えられている実感と喜び、そして委ねられている責任をさらに自覚する機会となりました。4 人の子供たちのアイデンティティ形成にも影響を与えて下さったと思います。

彼らを通して日本語キャンプ、日系一世の方々への訪問でもよき種が蒔かれましたが、何より畏れを感じていることは、ブラジリアアライアンス教会の中に、日本宣教に遣わされる召しを感じ始めている兄姉がいることがはっきり分かったことです。クリスチャンが少なく、また様々な困難と戦っている日本の教会から、5 名の兄姉がブラジリア宣教のために遣わされてきたことは、言葉を超えて大きなインパクトを与えるものでした。

今後主がブラジリアと日本同盟基督教団の宣教協力を通して、ご自身の御心を成し遂げて下さるようにと祈りつつ、日々の主の証人としての歩みに励んでいます。どうぞ続けてお祈り下さい。

浜田献　宣教師

今回のブラジルミッショントリップは、主の確かな導きのなかで「小さな奇跡」が連続して折り重なっていたような特別な機会でした。まず何よりも、日本チームの 5 名がはるばる日本から来てくださったこと自体が奇跡で、宣教協力の具体的な実でした。この 5 名のメンバーを送り出すために、国外宣教委員会をはじめ、各宣教区や諸教会、そして各ご家庭のご理解とご支援があったことを忘れることはできません。決して安くはない渡航費、容易には採れない 15 日間という休み、溜息の出るような片道 30 時間の長旅。これらの条件をクリアして来てくれる人は果たしているのかというこちらの不信仰をよそに、主は一人一人に御声をかけ、志を与えて下さいました。

ミッショントリップは、メンバー5 名の 12 時間の時差ボケ克服の戦いから始まり、翌日からキャンプ場への移動という強行軍で幕開けしましたが、主はブラジリアでの 12 日間の全行程を支えて下さいました。日本語キャンプでは、定員を上回る 124 名の参加者、内 40 名は教会外のノンクリスチャンでしたが、主は参加者一人一人を愛して導いて下さいました。飯田師のメッセージや招きの祈りに応答して、迷える羊が羊飼いである主イエスの元に帰って来る姿を見ることができました。茶道や着物の分科会では、日本の兄弟姉妹がささげてくださった高価な茶道具や浴衣、下駄などが大変喜ばれ用いられました。初めて浴衣に手を通し満面の笑みで写真に収まる女性たち。風情ある茶碗に抹茶をたてて茶道を楽しむ青年たち。最後の夜は、日本から持ってきていただいた食材を生かして、焼きそばやお好み焼き等の「日本食祭り」で大いに盛り上がりました。今回、私たちの要請に応じて、茶道具や着物等を快くささげてくださったお一人一人にこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。ささげられた尊い品々は、これからも日本語キャンプの度に大切に用いさせていただきます。ありがとうございました。

日本語キャンプ以外にも、日系家庭への訪問や伝道集会「ジャパンナイト」がありましたが、5 名のメンバーの個性と賜物は豊かに発揮され用いられました。最年長 76 歳の本間昭弘兄弟は、囲碁の対局も含め、同年代の移民一世の方々と熱い交わりをして下さいました。チームで紅一点の渡部桂子姉妹は、同じ愛媛出身の二宮さんや息子さんが愛媛在住の川村さんとの不思議な出会いに驚き、主の深い導きを感じずにはいられませんでした。英語教師の里見拓也兄弟は、持ち前の明るさと関西弁で自然に溶け込み、ポルトガル語単語もよくキャッチし、ドラムでも活躍しました。最年少 16 歳の柴田主貴兄弟は、得意のサッカーで周囲をうならせ、最終日には 17 歳の誕生日を迎え、盛大なパーティでブラジル愛を体感しました。引率の飯田仰総主事は、霊的な必要や流れをよく汲み取りながら、プログラムとチームをよくリードして下さいました。

ブラジリア教会にとっては初めてとなるミッショントリップでしたが、主は教会に新しい世界宣教への情熱の火を灯してくださったように感じています。今後の主の導きに大いに期待しています。

2018 ブラジルミッショントリップ　会計報告（2018 年 11 月作成）

※日本円

収入項目	金額（円）	備考	支出項目	金額（円）	備考
参加費	¥ 960,000	参加費 240,000 円 x 4 人	航空券代	¥1,083,100	216,620 円 x 5 人
宣教費	¥ 210,818	国外会計より	食費	¥　36,823	飛行機乗り継ぎ時、滞在中
献金	¥　50,000	滞在中経費として	通信費	¥　42,082	Wifi 15 日レンタル、宅急便※1、他
献金	¥　50,000	現地教会へ献金	引率経費	¥　22,859	海外旅行保険、旅券、他
			教会献金	¥　50,000	日本語教会へ
			宣教費 ※2（宣教師育成・研修費）	¥　34,142	キャンプの物、浜田師リクエスト他
			雑費	¥　1,812	梱包用品、文具
計	¥1,270,818		計	¥1,270,818	詳細は領収書参照

※１　ブラジルからのリクエスト品を往復運ぶ為スーツケース五個を教団事務所から成田へ往復宅急便使用

※2　日本語キャンプのリクエスト及び浜田師のリクエスト品、宿泊家庭へのお礼品

※3　ブラジルでの費用はクレジットカード（日本円）決済。献金も日本円でお渡しした。